

評価の基準（3：よく当てはまる 2：あてはまる 1：あまりあてはまらない 0：あてはまらない）

大項目	評価項目	児童	保護者	教員	学校関係者	分析 及び 改善へのアクション
1	主体的・学習意欲の高い学びの場づくり	2.4	2.3	2.0	2.5	【分析】 ・「のあて」「ふりかえり」という学習スタイルが定着している。教科や単元によって異なるが、キーワードを使うなど工夫することで具体的な内容で振り返りをする子どもも増えてきた。 ・体験的な活動は、地域との連携のもと工夫され充実しているが、その時間の活動として終わってしまうことが多い。読書活動も学年や学級によって差がみられる。 【改善へのアクション】 ・「のあて」「ふりかえり」は継続して、理解の深まりにつながるよう取り組んでいく。 ・体験的な活動は他教科とのつながりも考えて取り組んでいく。 ・読書活動の充実のために、学ぶ向上策にも取り入れ、全校で取組んでいく。
2	道徳教育の充実	2.6	2.2	2.0	2.4	【分析】 ・相手の気持ちを考えずに、乱暴な言葉をつかってしまう。また、自分をふり返ることが難しく、人を責めてしまう。分かっていても口に出してしまう。指を立ててしまう等の行動も気になる。 ・学校と地域、家庭との連携を更に強めていく必要がある。 ・「のわらい」としていることが、心に響いているのか見えにくく、生活に生かされているのかどうか分かりづらい。 【改善へのアクション】 ・心に響かせるために、授業での資料の効果的な使い方の研究に努め、研修等も行っていく。 ・保護者・地域へ啓発をししながら、学校だけでなく、家庭、地域でも考えていける場をもてようとする。 ・子どもたちの行動や発言に目を向けていく。
3	体力づくり	2.4	2.2	1.9	2.5	【分析】 ・全園体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、スポーツをすることが多い子どもの割合が大きかった（特に女子）。 ・ソフトボール投げ、長座体前屈の記録が低い。 ・距離である子どもの割合が大きい。 ・体育の宿題の充実と課題がある。 ・体育委員会がイベントを開いていたが、運動習慣につながるものではなかった。 【改善へのアクション】 ・練習することで記録が伸びるようなスポーツイベントの開催（大縄は運動習慣につながっている）。 ・そのときどきに「やりたい」と思えるような体育の宿題の開発 ・楽しくできる動的ストレッチを取り入れていく。
4	（指導改善）指導力向上	2.5	2.0	1.9	2.6	【分析】 ・校内研究会では、子どもたちが「やりたい自分」を見つけ、どの子ども主体的に取り組める単元構成の工夫と手立てについて授業研究を通して教職員で共有を図り、授業改善に努めた。田上スタンダードによる共通実践は4年目となり、子どもたち自身が「やりたい自分」を見つけれられるよう教師の心と子どもとの思いが一致するような学習展開を意識するようになってきている。また、モジュールタイムには、eライブラリを活用して、基礎・基本の定着に取り組んだ。 【改善へのアクション】 ・「田上スタンダード」のレベルアップ ・校内研究と連携して取り組み、各学習活動における教師の役割の明確化と成長を実感できる「ふりかえり」、主体的に取り組める手立ての工夫により、指導力向上を達成していくことを目指す。 ・「eライブラリ」等を使った基礎学力の定着 ・「定期的なOJ研修」による指導力向上 ・テーマを設定した研修会を月1回開催し、様々な教員の指導技術が共有できる機会を作る。併せてICT活用研修会も行っており、指導力向上と業務改善を目指す。
5	（連携）家庭・地域との連携	2.6	2.2	2.1	2.8	【分析】 ・学校からの情報発信や連絡は、tetoruを使って保護者のスマートフォンに直接、届けることができ、円滑化・効率化を図ることができた。 ・昨年度に引き続き、学校ホームページの「校舎の窓から」のコーナーは毎日更新し、学校生活の様子を随時、知らせることができた。 ・懇談会や参観日を設定し、保護者に教育内容を知らせたり、学習活動の様子を見てもらったり教育内容を説明したりして、理解していただく機会を持つことができた。 【改善へのアクション】 ・tetoruに未登録の家庭には、登録を促し、確実に連絡が届くようにする。 ・学校ホームページの更新や「校舎の窓から」のコーナーは、複数の教職員が操作できるように研修woする。
6	（連携）道徳訓練や防犯教室・交通安全教室等、PTAやスクールガード等、地域の方々の協力のもと、防犯・安全に努めたりして、安心・安全な学校づくりに努めている。	2.7	2.2	2.1	2.6	【分析】 ・道徳訓練や防犯教室・交通安全教室・自転車体験など、各学年の見学段階にあった内容で子どもの安全に対する意識を高めることができた。今年度は、田上コミュニティ事業「We are 田上っ子 Let's go 田上祭」を実施することができ、家庭・地域・学校の連携ができた。 【改善へのアクション】 ・今年度同様、防犯・防災・安全に関する訓練や学習を行い、自分事として参加できるような内容を検討し、より安全に対する意識を高められるようにする。子どもたちを中心に置いて家庭・地域・学校が連携したコミュニティスクール事業となるように、家庭・地域・学校で共に考える機会を継続して作っていく。
7	（連携）保幼小中	2.6	2.2	1.8	2.8	【分析】 ・保幼小連絡会や毎月の小中連絡会を行うだけでなく、気になることがあればその都度保幼中と連絡を取り情報共有を行ってきた。 ・毎月の小中連絡会の食育を田上小・上田小・田上中・田中で順に回したり、会議の前に学習の様子を参観したりすることで、学区全体で子どもの様子を共有することができた。 ・保幼小交流では、音楽会や運動会、どんぐり拾い、秋祭りなどを通して園児と1・5年生との交流を行うことができた。 【改善へのアクション】 ・小中交流や小中交流、保幼小交流の活動内容を振り返り、園児にとっても児童にとってもさらに学びのある活動になるよう精査していく。
8	（生徒指導体制の充実）子どもたちに規則正しい生活リズム、あいさつなどの基本的な生活態度を身につけられるように取り組んでいる。	2.2	2.1			【分析】 ・情報モラル教室を開催し、匿名転載の生活になることもあるSNS依存の怖さや対策を学習し、保護者に向けても通達で啓発をした。 ・昨年度と比べると、あいさつができていない子が少なくなっている。 【改善へのアクション】 ・自主的にあいさつをすることが習慣化できるよう取り組みを子どもたちと考える、あいさつを活性化していく。 ・保護者や家庭科の時間・早寝早起きや朝顔の大切さについての指導を行ったり、担任だけでなく養護教諭や生徒指導からも長期休み前後等に生活習慣についての指導を行ったり、保護者とも連携し家庭での過ごし方について協力を得たりしながら、生活習慣の改善を目指していく。
9	（生徒指導体制の充実）子どもたちが生き生きとした学校生活を送れるよう、不登校やいじめなどの生徒指導上の問題について家庭と連携して取り組んでいる。	2.4	2.3	2.2	2.5	【分析】 ・毎週金曜日に各担任にいじめ・不登校・問題行動について「ペビリーフ」で情報共有をすることで、複数の教師で子どもたちのことを見守り、対応が遅れてしまったりしないように意識した。また、こころの健康相談を実施し子どもの気持ちの変化が見られた時には声をかけたり様子を観察したりするなど担任・教務、相談で確認し子どもたちのSOSを見逃さずいようとしてきた。 ・いじめの疑いがある事案は、直ちにいじめ対策委員会を開き、対応を共通理解して進め、事案に関わる児童が安心して過ごせるよう見守り体制を構築した。 ・教育相談時間に合わせて、朝の「田上っ子タイム」を設定し一人一人とじっくり話す機会を設け、教育相談の充実にも努めた。 ・不登校傾向の児童に対して、担任と一緒に家庭訪問をするなど、こまめに保護者と連絡を取ったり、スクールカウンセラーにつないだり助言を受けながら校内の活用や利用を提案した。放課後登校を提案したりするなど、その子に合った対応をしてきた。 ・不登校傾向のある児童への対応が遅れていないように、職員室に不登校傾向のある児童の出欠状況が分かるホワイトボードを設置し、複数の目で気づきかけられるようにした。 【改善へのアクション】 ・朝の田上っ子タイムを継続し、教育相談の充実や、クラス会議、読み聞かせ、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、自尊感情や自己有用感を高めたい。 ・特別支援教育や多様な児童の理解教育などの充実を図り誰もが安心して過ごせる学校づくりをしていく。 ・クラス会議でスクールカウンセラーに同席してもらうことで、アセスメントが深まったので、目標調整をしっかりとっていくことで、支援が進むようにする。
10	（特別支援）特別な支援を要する子どもに対して、組織的・計画的な支援・指導を行っている。	2.7	2.2	2.1	2.6	【分析】 ・個別の指導計画については、昨年度末に今年度の支援についてもしっかりと保護者と確認しておいたことで、4月の懇談の機会に前期の支援についても具体的に話すことができた。 ・個別のアセスメントでは、K-BPSの方法を取り入れたことにより、それぞれの教師が持っている情報を集約しやすくなり、短時間でアセスメントをすることができるようになった。 ・2年生だけでなく、1年生についてもみらがなつまずきを調べる調査を数回行い、MIMの実践や特殊言語の指導をコーディネーターが行った。児童のつまずきを改善状況を把握することができた。 【改善へのアクション】 ・個別の指導計画の手立てなどについて、さらに効果的なものになっていくように学年部会の際にコーディネーターも入った校内委員会を設定する。 ・気になる子については、K-BPSを用いたアセスメントを定期的に実施し、アセスメントを適宜変更しながら支援をしていく。
全項目の平均		2.4	2.2	2.0	2.5	